

殿山第二小だより

令和 5年 5月15日 第 6 号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044

発行責任者 校長 山本 容子

学校では、「もしも」の時に備えて、日常生活の中で、人の話をきく姿勢を大切にしています。

きくときの、『あいうえお』を身につけることができるように、言葉がけを行っているところです。

「あ」・・・ 相手を見て の「あ」

「い」・・・ いい姿勢で の「い」

「う」・・・ 頷きながら の「う」

「え」・・・ 笑顔で の「え」

「お」・・・ 終わりまできく の「お」

「もしも」の時に備えて

その1

話し手の「言葉」をきく（聞く・聴く）だけではなく、その表情からどんな気持ちで言葉を発しているのか、「気持ちを読み取る」「想いを想像する」「自分の考えと比較しながら、考えながらきく」ことは、コミュニケーションを豊かに広げていく力となるはずです。

さて、先日、避難訓練（5月10日）（地震・火災・津波）を行った時に、集団として「人の話をきく」ことができる子どもたちの姿を見ることができました。放送の指示を聞き、自身の身の安全を確保し、先生の指示で速やかに安全に運動場に避難をすることができていました。

連休明け、3日目の避難訓練でしたが、ちょうど、石川県で発生した震度6強の地震のことや、伊丹市で大雨が続いたことで堤防が決壊した水害の事など、子どもたちは報道をよく知っていて、話を聴きながら、災害のこと、もし自分の身に起こったらどのように身を守るかなど、考えながら真剣に聴くことができていたように思います。また、次の日の早朝に千葉県で発生した震度5強の

地震のことも、我が事として考える機会となったのではと思っています。

このように、集団の中で身につけた「話をきく姿勢」を日々の学習にも応用し、自身で考えながら、想像しながら、集中力を持って学習に取り組むことが大切なことと考えています。



今から5年前となりますが、2018年6月18日に起こった「大阪府北部地震」では、枚方市も大きな被害を受けました。登校途中（7時58分）に生起し、子どもたちもずいぶん怖いおもいをしたことだと思います。科学者で随筆家の寺田寅彦さんの言葉として伝えられている「天災（災害）は、忘れた頃にやってくる。」（自然災害は、その被害を忘れたときに再び起こるものだという戒め）を心に留め、いつどこで何が起こるかわからないからこそ、「もしもの時」に、自分自身の命を守るためにはどのように行動したらよいのか。まず、「自分の命は、自分で守る。」こと。そのために、自分ができることを常日頃からイメージしておくことが大切なことと思います。

学校では、いろいろな機会をとらえて、「命」の大切さ、尊さを話しかせ、子どもたち自身で考え、判断し行動に結びつくように学習をすすめていきたいと考えています。

子どもたちの安全・安心な学校生活のために、現状の把握と、柔軟で臨機応変な対応が求められていると実感する今日この頃です。保護者・地域の皆さまと連携しながら、子どもたちの健やかな心身の成長が図れる殿山第二小学校 校区でありたいと思います。どうぞ、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。